

直販所の有効活用による漁家所得向上に関する研究

企画管理部

背景、目的

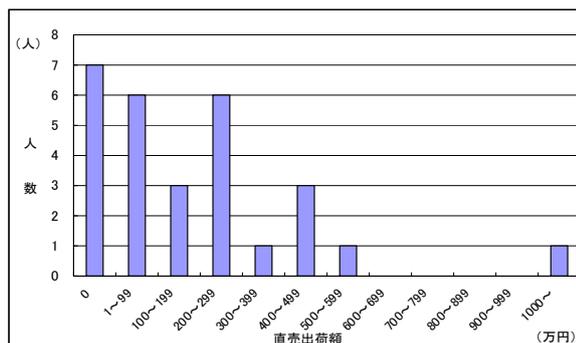
漁業者や漁協が主催または参加している直売所での販売は、消費者にとっては鮮度の高い水産物を入手でき、漁業者にとっても中間マージンが不要で、規格外の流通に乗らない水産物の販売も可能なため、両者にメリットがあります。

しかし、必ずしも漁業者が直売所を有効活用しているとはいえません。

そこで、直売所での販売分析や直売所を利用する漁業者の経営分析を行い、直売所の有効活用や漁家経営への貢献度を検討しました。

成果の概要

A漁協の直売所への出荷実態を見ると、各人の直売の取組に差があることが分かりました。また、約半数の人が直売所に200万円以上の出荷をしていることから、200万円出荷した場合の経営分析を行い、直売によって創出された利益を求めると、約55万円と推測されました。



直売出荷額の度数分布 (A漁協)

直売による利益 (収入が200万円の場合)

区分	収入 (a)	支出		利益 a-(b+c)
		漁労関係 (b)	出荷関係 (c)	
直売出荷 (A)	2,000,000	800,000	430,829	769,171
市場出荷 (B)	1,196,437	800,000	177,600	218,837
A-B	803,563	0	253,229	550,334

労働日誌調査より、パック詰めから輸送～引き取りにかかる作業時間は約516時間で、漁労を除く全作業時間の約4割を占めましたが、直売することにより増収となった労働時間あたりの利益は1,642円と試算され、直売出荷は労働に見合った収益が得られていることが分かりました。

直売活動の時間あたり労働生産性

のべ作業時間	515.95 時間
直売収入	2,867,025 円
直売純利益	846,945 円
時間あたりの労賃	1641.5 円/時間

※標本船日誌4人分の平均